

測定値が維持管理計画値を超過した(下回った)理由(*)

① 渋谷清掃工場 1号炉12月7日(土) 11:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、煙突入口連続測定器で128ppmを記録した。

ごみ質変動により燃焼が不安定となり、一酸化炭素濃度が上昇した。

再燃バーナの運転、蒸発量設定値の変更等の手動介入により、燃焼状態が回復した。

② 練馬清掃工場 1号炉12月7日(土) 24:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で105ppmを記録した。

焼却炉内に圧密された古ごみが投入されたため、一時的に燃焼が過剰となり

炉内の酸素が不足し、一酸化炭素濃度が上昇した。

燃焼空気量の増量、ストーカの運転調整及びごみの攪拌により、燃焼状態が回復した。

令和元年度 維持管理状況(12月1日～31日)＜工場設置計器の測定結果＞より